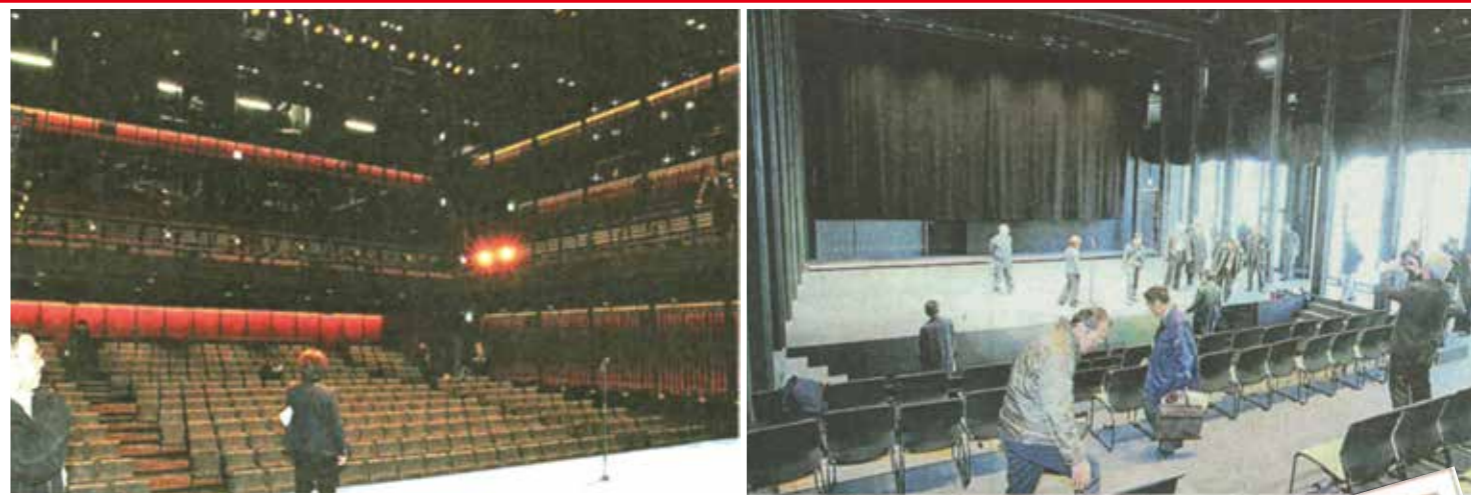
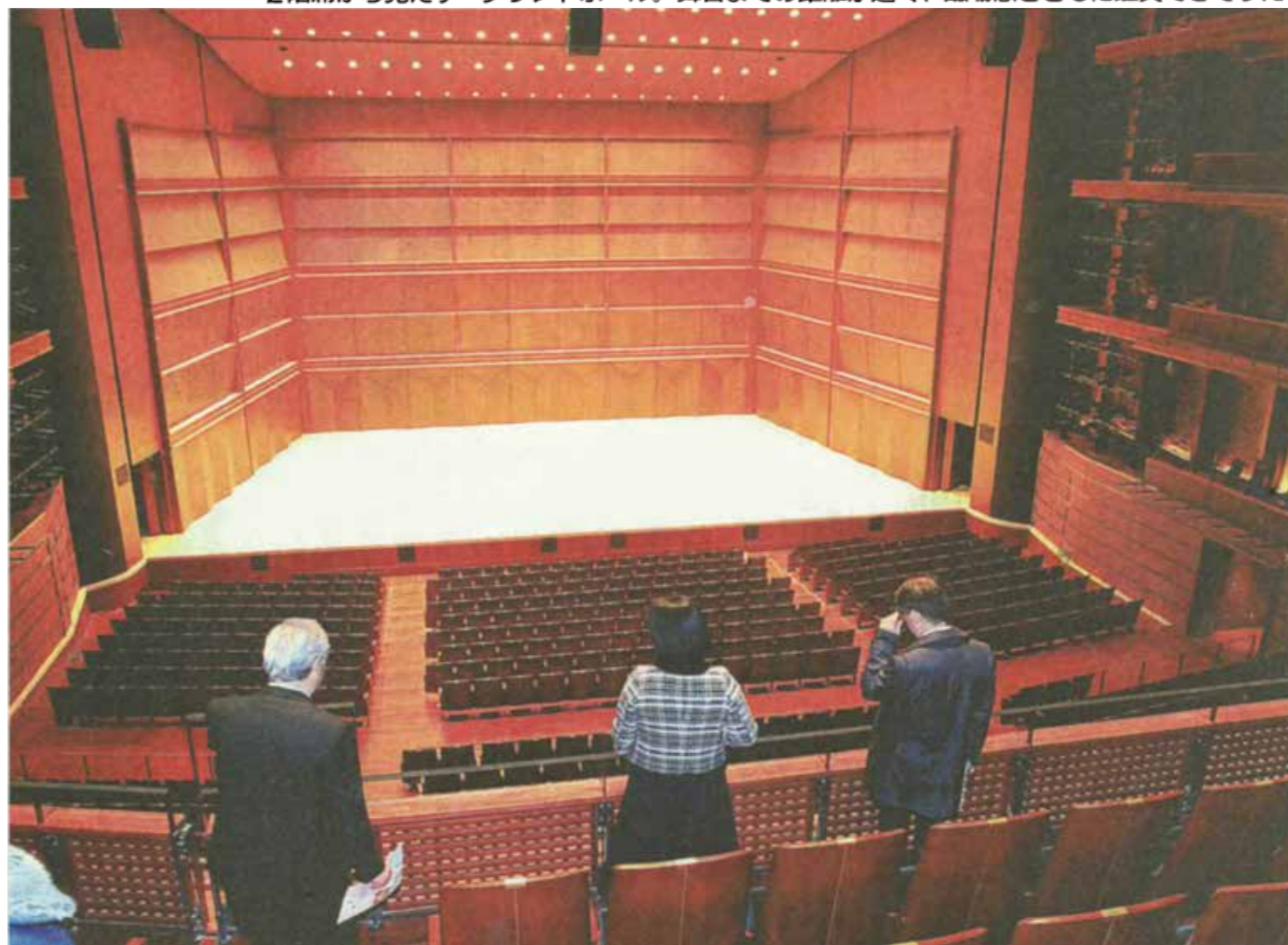


2階席から見たザ・グランドホール。舞台までの距離が近く、臨場感とともに鑑賞できそうだ



③中劇場「久留米座」は芝居小屋の雰囲気漂わせている  
④習い事の発表会から展覧会まで、多彩な利用が期待される小劇場「Cボックス」

# 大中小3劇場 個性きらり

「自由」  
「和風」  
「重厚」

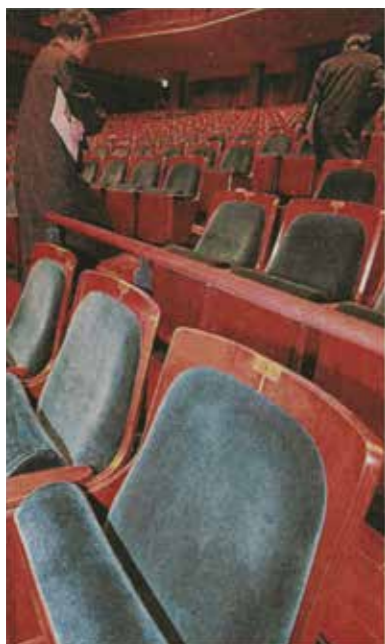
深い赤色を基調にした重厚な場内に、ライトに照らされた舞台がくっきりと浮かび上がる。ザ・グランドホール(1514席)は4階建ての客席に加え、5層のサイドバルコニーが欧州の劇場を思わせる。この広いホール空間が音の響きを深くするようだ。舞台上上がって驚いた。客席が近く見え、誰もいないはずなのに視線を浴びている感じがするのだ。ここで演じ歌うと、どんな気分なのだろう。この舞台上に憧れる筑後の若者がどんどん出てくるはずだと期待が湧く。

## 久留米シティプラザ開館まで2カ月

久留米市六ツ門町の大型複合施設・久留米シティプラザのメイン施設である大中小の3劇場が初公開された。国内外の有名楽団・劇団が公演する大劇場「ザ・グランドホール」、芝居小屋の雰囲気がある中劇場「久留米座」、幅広い目的で使える小劇場「Cボックス」と、個性が際立つ。市議会の視察に同行し、レンズを向けた。  
(中野剛史)

和の趣を持つのが久留米座(399席)。入り口近くにある久留米餅の日よけが雰囲気を高める。演劇向けの会場で、1階席の両脇には升席がある。ユニークな鑑賞ができそうだ。

「C」はクリエーティブの頭文字。舞台と客席は可変式で、利用者の発想で自由に用途を変えることができる。4月27日の開館まであと2カ月。シティプラザの担当者が思いを語る。「Cボックスを使った発表会で舞台表現に興味を持った子どもが、やがて久留米座に立ち、スターになってグランドホールに帰ってくる。そんな夢の舞台になれば」



①ザ・グランドホールの座席は54釐の幅があり、ゆったりと鑑賞できる  
②久留米座では升席で演劇を楽しむことができる

久留米シティプラザのフロア図

9番街区 (旧六角堂広場)		8番街区 (旧井高屋跡地)	
5F	大会議室 屋上庭園	5F	屋上庭園
4F	和室長盛 中会議室 小会議室	4F	Cボックス スタジオ1~4
		3F	久留米座
2F	展示室	2F	ザ・グランドホール 総合受付
1F	FM 六角堂広場 スタジオ カタチの森	1F	ショップ、レストラン
B/F			地下駐車場



久留米座の近くにある

10月にはウィーン・フィルも  
3劇場ではそれぞれの特徴を生かした公演が予定されている。ザ・グランドホールでは5月の久留米市民オーケストラの定期演奏会を皮切りに、6月にロックバンド「シーナ&ロケッツ」のライブ、10月にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が

登場する。久留米座では竹下景子さんの朗読劇「ジョルジュ」が12月に、能の公演が2017年1月にある。Cボックスでは今年10月に仏の新感覚サーカス「シルク・ヌーヴォー」のほか、絵本作家ユニット「tupera tupera」(ツペラツペラ)の作品展示会などがある。

